



衆議院議員 玉城デニー FAXニュース (3/27号)



◆うりずんの会、高江ヘリパッド視察！

○県選出衆参国政野党議員で構成する「うりずんの会」で3月16日東村高江のヘリパッド視察に行ってきました。野党の国会議員が本基地内に立ち入るのは初めての事で、玉城デニーのこれまでの人脈を生かした国会内の活動が功を奏しました。

現在のヘリパッド工事現場の状況、影響などを視察し防衛省沖縄防衛局の職員から説明を受けました。前日の夜、米軍より基地内での写真撮影禁止の連絡が有り多少の不満もありましたが、基地内に立ち入る事を許可されただけ

でも一定の評価はあるものだと思います。玉城デニーは「どのような議論でも現場や資料などの事実確認が一番基本的な事。国会でも、現場調査をした資料や防衛局の説明などを参考にして論戦に臨みたい。」と意気込んでおりました。



◆沖縄タイムス 3/16(土)掲載記事

外相、県内基地うろ覚え？

「キャンプ・キンザーの返還面積は1畝」一。15日の衆院外務委員会で、岸田文雄外相は米軍嘉手納基地より南の施設・区域の返還規模を玉城デニー氏(生活)にただされ、誤ってそう答弁した。正解は施設全体で274畝。その後の答弁で訂正したものの、与党議員からも不満の声が漏れた。

だが訂正の答弁では「271畝」としており、施設を返還時期別に分けた資料を読み違えたと思われる。返還される施設・区域

自民議員もハラハラ

衆院外務委員会の答弁

も陸軍貯油施設桑江第1タンクファーム、キャンプ瑞慶覧、キャンプ・キンザー、那覇港湾施設(那覇軍港)を挙げたが、重要な普天間飛行場やキャンプ桑江のすべてには触れなかった。

自民党委員の1人はおぼつかない答弁に「嘉手納以南は日米首脳会談でもテーマになるほど重要な政策。外相は情報をしっかり頭に入れて丁寧に答弁してもらわないと困る」とハラハラした様子だった。

◆沖縄タイムス 3/18(月)掲載記事

記者のメモ

「論理空回り」と怒り



○…「本当の負担軽減は基地を沖縄県内に移すことではない」と衆院外務委員会で政府に迫った玉城デニー衆院議員(生活)。負担軽減、普天間飛行場の固定化の回避を名目に名護市辺野古移設を推進する答弁を繰り返す政府に対し「論理をぐるぐる回しているだけ。沖縄が求める実質的な負担軽減は県外か国外移設だ」と指摘。4・28に式典を開く姿勢にも「講和条約が米軍による事件・事故、人権侵害の原因。復帰後も、県民の生活も思いも変わっていない」と沖縄の気持ちを代弁した。(東京)

配信希望・停止、その他ご意見などございましたらご連絡をお願いいたします。

平成 25 年 3 月 27 日 発行：玉城デニー事務所

TEL.098-929-2416 FAX.098-929-2005